

## 職場環境にバランスとエネルギーをもたらす i スタイル

著者：Robin Kellogg (Instructional Designer and Trainer, John Wiley and Sons)

(転載、引用可。ただし出典を明記して下さい。)

シリーズ第 3 回へようこそ。このブログでは、4 回に分けて Everything DiSC® についてお話ししています。このシンプルかつパワフルな自己分析ツールは、人と人がより有意義で生産的なつながりを作るために、40 年以上にわたって役立ってきました。第 1 回では Everything DiSC Workplace® をご紹介し、志気が高く意志の強い D スタイルを検証しました。そしてこの特性を持つ人の職場体験を左右する、優先事項と行動の選択における好み（何が力を引き出し、何が他の DiSC® スタイルの同僚と交流する際に課題となるか）を検証しました。第 2 回では、しっかりしていて信頼できる S スタイルに注目し、その特性を持つ人が組織にもたらす強みを見ていきました。

今回は i スタイルを検証していきましょう。あらゆるチーム、部門、あるいは組織全体には、バランス感覚と適切なものの見方が大いに必要とされます。それをもたらすうえで、この特質の演じる役割は何でしょうか。

i スタイルの人は楽観的で「**熱意**」にあふれているので、自然にチームメンバーの士気を高めます。この人たちにとって、目標やアイデアに対するチームメイトの熱意をかき立てることは簡単です。自分の意見や感情はオープンに表し、表現力にも富んでいます。また、初対面の人や新しいアイデアに対してもオープンで、進んで受け入れます。つまり人の最良の部分进行期待するのです。

フレンドリーで社交的であり、他の人と一緒に働くことができるプロジェクトに引きつけられ、「**協力**」に価値を見いだします。それがより良い結果につながるだけでなく、仕事を楽しくすると信じているからです。知らない人でいっぱいのは、新しい出会いと交流の大きなチャンスと映ります。それは i スタイルの人が持つ欲求（この機会がなければ出会えなかったかもしれない人とつながりたい、そういう人同士を結びつけたい）を満たす機会なのです。

また、このパーソナリティを持つ人は「**行動**」に出ようと奮闘します。その第一歩を踏み出す力と直感的な決断力は、グループが前進を続けるうえで大いに役立ちます。創意に富んだ画期的なソリューションを元に発奮し、生き生きとした興奮を好み、たいていはぐずぐず考え込まずにスタートして突き進みます。

i スタイルの人が職場に持ち込むもののなかでもっとも貴重なのは、おそらくその活気を作り出す能力、エネルギーの高さ、そして人と人とを結びつけようとする欲求でしょう。実際、同僚や上司、直属の部下、その他の人が一番高く評価する点がそこであることは間違

いありません。

他のスタイルと比べると、iスタイルの人は他の人からのアイデアを積極的に求めます。ですから、きっとチームのブレインストーミングを無限の可能性（iスタイルの見方ではとてもポジティブなもの）に導くものとみなすでしょう。しかし、この新しい人やアイデアに対してオープンな性質、人とつながり協力しようとする性質ゆえに、もっとパーソナルな空間が必要な人や、アイデアや感情の処理にもっと長い時間が必要な人がいることをなかなか理解できないかもしれません。また、人に否定的なフィードバックを返すには努力を要するかもしれません。「悪役」と見られることを恐れるからです。

人により、またスタイルにより、仕事の意欲を刺激するものは異なります。そして何より大切なのは、**Everything DiSC®**の目的は個人の性質を変えることではない、と認識することです。このアセスメントツールが力を発揮するのは、個人が自分の強みや動機付けとなるものを理解し、自分にとってストレスとなる状況を知るのを助けるとき、そして人と一緒に仕事をする過程で私たちすべてが直面する、避けられない課題を乗り越える明確な戦略を提案するときです。

シリーズ最後となる今回は、**Everything DiSC** スタイルの残る1つ、Cスタイルを持つ人の長所を引き出す方法を検証します。